

市長と語る会(令和5年3月7日)における意見及び市長の回答

※参加:「府中市における2050年二酸化炭素排出実質ゼロに向けた協働に関する地域協定書」の締結事業者

No	意見	担当	状況	理由等	参考(語る会当日の市長の回答)
1	東京農工大学では、食品残渣や木材をバイオマスに利用するだけでなく、食品や医薬品などを創造するなど、価値創造というところで皆さんと一緒に研究を進めたいと考えている。	環境政策課	進行中	具体的な事業にはなっていない段階ですので、今後、市として協力できる面がございましたら6者協定の枠組みで連携させていただければと考えております。	本日の参加いただいている事業者の方々が結びつくことで、すごい力が生まれてくるし、新たな視点で具体的な作業ができるのだと思いました。
2	サントリーでは、ビールを作る際に発生する麦芽かすが一番大きなバイオマスになると思っている。濡れた麦芽かすをエネルギーとして利用する方法として、直接燃やすかメタン発酵の2種類があるが、燃やすとなると乾燥方法に課題がある。省エネを進めていくほど、余剰熱や蒸気が減るため、乾きにくくなるため、乾燥を行うに当たり、サントリー以外の事業者の工場の廃熱を利用し合うことなどをしないと、ゼロカーボンの実現できないと思う。 また、市内の地域、産学が利用できる場所に、バイオマスステーションを設置するなどの規模で取り組まないと、将来本当の意味でのCO2ゼロは無理だと思う。 今まで麦芽かすは牛の餌にしていたが、より価値を高めるためにエネルギーにするという世界もある。そういう意味では、いろいろな工場から出る廃棄物を全部組み合わせ、そこで1個のステーションで大量にガスをつくるという構想もある。	環境政策課	進行中	バイオマス発電・熱利用については、太陽光発電と比較すると微量のものとなりますが、市民の日常生活に直接的に結びつき、脱炭素を身近に捉える機会を作ることが可能と考えております。 今後、利用促進を図るには広域で連携していく必要があると考えておりますので、引き続き調査・研究してまいります。	共通の悩みをお持ちのところもあると思うので、もしそういうところがあればご意見等いただきたい。
3	キューピーでは、製品の切り替え時などにどうしても発生してしまう製造ロスのマヨネーズやドレッシングをバイオガス発電の原料へ活用している。 油分系も配合によっては、牛ふん等を使って混ぜながらカロリーコントロールを行いメタン発酵できれば、食品残渣を有効活用できると思う。 サントリーから提案のあった、地域の企業や一般家庭が原料を持ち寄り、バイオマス発電をするという事はよい取組であると考えてる。ただし、分別作業が課題なので、一般家庭に協力をいただくなどの仕組みを作って回せれば有効活用できる。	環境政策課	進行中	ゼロカーボンシティを推進するうえで、一般家庭にいかにかアプローチしていくかは課題と捉えております。 今後、6者協定の枠組みを生かし、環境教育や啓発を行いながら取り組んでいきたいと考えております。	—
4	同じ地域の事業者から排出される食物残渣をマッチングし、メタン発酵菌が喜ぶ環境を作るような取組ができればよい。	環境政策課	進行中	バイオマスの今後の利用促進を図るためには、広くバイオ燃料を確保する必要があると考えておりますので、ご意見いただいたマッチング等を踏まえ調査・研究してまいります。	—
5	サントリーでは、他県に麦芽かすを牛の飼料として出している。府中市でも麦芽かすを利用し、牛を飼育し、府中牛といったブランドとして育ててみると、面白いビジネスになるのではないかと。また、市内の事業者で排出されるものを集め、循環するような、サステナブル施設を設置してはどうか。そうすることで、雇用の確保をし、企業や産学などいろいろなところへ転換できるのではないかと。	環境政策課	進行中	バイオマス発電・熱利用については、市民の日常生活に直接的に結びつき、脱炭素を身近に捉える機会を作ることが可能と考えております。 今後、利用促進を図るには広域で連携していく必要があると考えておりますので、ご意見いただいた設備整備なども含め、引き続き調査・研究してまいります。	1事業所でも、他の事業者の力を借りて、循環を考えなければなりません。同一地域での循環ができれば、それに越したことはないと考えます。

No	意見	担当	状況	理由等	参考(語る会当日の市長の回答)
6	キューピーでは、府中市と協働して、食品ロスが出ないようなエコレシピを作成している。 農工大などからキューピーの食品残渣を有効活用するための知見をいただくなど、皆さんと一緒に取り組んでいきたいと考えている。	環境政策課	実施予定	これまで、キューピー様と協働でエコレシピの開発をしてまいりましたが、今後も6者協定の枠組みを生かし、農工大様を含めた各者の知見を踏まえながらイベント事業につなげてまいります。	—
7	カーボンニュートラルは地域連携をしないと達成できないと考えている。ある自治体では、地方の自治体の地域内に風力発電の施設を設置し、自己託送という形でグリーン電力を使っているという事例がある。府中市においても同様の取組を行うことが必要ではないかと考えている。	環境政策課	進行中	ご意見いただいたとおり、市内の再生可能エネルギーのみではゼロカーボンシティの到達は困難であるため、地方などと広域で連携を行う必要があると考えております。今後、先進自治体の取り組みなどを参考に調査・研究してまいります。	ご意見いただき、ありがとうございます。
8	交通の脱炭素が必要だと考える。その手法としては、ガソリンをバイオ燃料に変えていくことと、将来的により再エネ率の高い電力で充電できるようなEVに切り替えて自動車を走らせることである。昼間に駐車されている車が多く、その時間帯にEVを充電し、車を走らせることが脱炭素につながると考える。また、EVの電気は施設にも使うことができるため、災害時のレジリエンスを高めることになる。こうしたことを実現するためには補助金を活用し、サステナブルな生活を支えるインフラを作っていくことが必要であると考えている。	環境政策課	実施予定	ご指摘のとおり、運輸部門の脱炭素についても重要な課題を捉えており、令和5年度より、次世代自動車の購入に係る費用の一部助成を行っております。加えて、今後、公共施設への充電器の設置などについても取り組んでいきたいと考えております。	府中市は人口が26万、世帯数が13、14万人であり、自動車を保有している方も多くいらっしゃるということ、また、中央高速道路や縦横に国道や都道があり、市内の道路整備がよくできているため、自動車から排出される二酸化炭素の量は少なくないと考えます。仮に、EVに切り替わった場合に非常に大きな効果が出せると考えます。
9	サントリーでは、再生可能エネルギーの活用において、太陽光発電は太陽が照っていることが条件で、不安定な面があり、大きな課題であると考えている。水素はキーワードとして重要であり、電気分解で水素を抽出し、貯蔵し、水素ステーションの設置などが再エネ電源という意味で1つあると考えている。	環境政策課	進行中	水素及び水素ステーションについては、再生可能エネルギーを普及するうえで欠かせない要素と認識しております。東京都や近隣自治体の動向を注視し、活用に向けて調査・研究してまいります。	—
10	水素を作る際もグリーン電力を使う必要があるため、スタートは太陽光発電が必要であり、安定的に発電をする技術の検討等が次のステップになると考える。	環境政策課	進行中	公共施設への太陽光設備設置については検討を進めておりますので、今後、安定的な発電かつ余剰電力の活用先として、グリーン電力の検討も進めてまいりたいと考えております。	府中市の地理的な位置付けから、太陽光発電が有力と考えます。今学校の建替えを進めていますが、今は太陽光パネルをいかに置けるか検討していくような状況になると考えます。
11	身近な取組としては、市役所全体を、省エネから畜エネまで全て含めてゼロエミッションにする取組がある。また、府中市だけでなく広い地域で考えることや、太陽光発電だけでなくバイオマスを絡めるなど、様々な内容を連動させて取り組む必要があると考える。	環境政策課	進行中	公共施設の省エネ等については、喫緊の課題と捉えており、新築・改築等のタイミングで機器の入れ替えを図ってまいります。また、清掃工場からの発電についても調査・研究してまいります。	他の地域との連携という点では、近隣4市でごみの中間処理を行う清掃工場を持っており、ごみの焼却により発電し、売却をしています。清掃工場で発電した電気を各市で利用することについて、研究をしていますが、実際に使うところまでは行っていない状況です。